

4年 図工

ねん土から生み出そう

番組名 「キミなら何つくる？」

放送回 第2回 ねん土でにゅ！秘密基地

実践者 北海道札幌市立新琴似北小学校 教諭 安井 政樹

自分の思いを生かしながら作品をつくるよさや創作の技法などがわかり、意欲化が図れる番組です。

番組の使い方

活用のねらい

ねん土をつかって、それぞれの思いを表現する楽しさや、制作の過程で失敗したと思うことをさらに生かして作品にしていくというよさを感じることができる番組である。

番組視聴を通して、いろいろな道具を使いながら楽しんでいる姿を見ることで、自分も作ってみたいという意欲を高めたい。

具体的な手立て

- ・今までのねん土の学習を振り返り、それぞれの児童の困り感などを明らかにしたうえで、番組を視聴させる。
- ・視聴後、感想交流を行い、番組内容の共有化を図る。
- ・番組アプリを用いて作品を投稿する。

「どうしてもうまく作れない」「苦手だ」という苦手意識をもっている子が多く始まる。作品に込められた思いやその面白さ、作品一つ一つには良さがあることを番組視聴することで感じさせ、それをみんなで共有することにより、安心して楽しく、そして意欲的に創作できる雰囲気をつくることできる。また、創作のコツや技法を学ぶことで、創作意欲を高めることができる。できた作品をアプリを用いてその場で投稿することで、がんばって完成させようという気持ちにもつながっていく。

授業の概要（2時間扱い）

本時の目標

- ・ねん土の形を変えながらイメージを広げ、楽しんで立体に表そうとする。
- ・粘土べらや糸などの用具を使って加工して表現している。
- ・自分や友達の作品を見て、形や構想の面白さなどを感じ取っている。

ねん土の学習を振り返る（3分）

- ・楽しい。 ・うまくできない。
- ・思い通りの形を作れない。 ・苦手。

番組視聴（10分）

感想交流（7分） 小グループ交流→全体交流

- ・みんなちがったけど、どれもよかった。
- ・糸とか道具を使うと面白そう

作品制作（60分）

- ・薄くのばしたら、早めにひっくり返した方がいいよ。
- ・この道具を使ったら、こんなのができた！



作品投稿（完成した子から）

- ・番組アプリを活用して、作品を写真に残し、投稿する。
- ・投稿が終わった子から、次の作品作りを楽しむ。

後片付け・本時の振り返り（10分）

- ・もっとやりたいな。面白かった。

生き生きと学ぶ子どもの姿

制作を楽しむ環境づくり

番組では個性的な3人が、三者三様の方法で作品を作り、それぞれによさがあることを描いている。また、よく起きる失敗や解決策、道具の使い方などが示されており、苦手意識をもっている子も、ねん土が得意な子も、どの子も意欲的に楽しみながら、試行錯誤を繰り返し制作していた。

道具を生かした表現

粘土べらやかきべら、糸などの道具を用いてできる形を楽しみ、それを生かして表現している姿が多く見られた。

良さを認め合い・自信をもって投稿する

「できた！」という喜びと、「すごいね！」という認め合いの声が多く聞かれた。

そして、「僕も投稿して！」と自分の作品に自信をもって、番組アプリを用いた投稿を希望する子がたくさんいた。

指導を終えて

「授業は楽しかったですか」「番組を見て、いろいろ工夫したり試したりしたくなりましたか？」の項目で「たいへんそう思う」と回答した子が、94.2%いた。

子どもたちは、番組を活用した図工学習がとても好きなようで、「もっとやりたい。」ととても意欲的に取り組んでいた。

今回は、番組アプリを用いて希望者が投稿する取組を試してみた。今まで作品鑑賞の時に自信をなさそうにしていた子も、それぞれのよさを見付け、認め合う雰囲気の中で、私の作品も投稿してみたいと言っていた。作品のコメントでも、自分なりの発想に自信をもって、制作することができたことが分かった。

番組を活用することで、番組で描かれている「それぞれのよさが認められる雰囲気」が学級の中に浸透し、図工を楽しめる子がより多くなったと感じた。